

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【公表番号】特表2008-507961(P2008-507961A)

【公表日】平成20年3月21日(2008.3.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-011

【出願番号】特願2007-522989(P2007-522989)

【国際特許分類】

C 12 N 5/10 (2006.01)

A 61 K 35/12 (2006.01)

A 61 P 35/00 (2006.01)

C 12 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 12 N 5/00 B

A 61 K 35/12

A 61 P 35/00

C 12 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月22日(2008.7.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

腫瘍壊死因子関連アポトーシス誘導リガンドを発現する、樹状細胞ではない腫瘍帰巣細胞。

【請求項2】

腫瘍帰巣細胞に腫瘍壊死因子関連アポトーシス誘導リガンドをコードするアデノウイルスベクターを形質導入することによって得ることが可能な、請求項1に記載の細胞。

【請求項3】

腫瘍帰巣細胞が、成長因子で処置されたがん患者の末梢血から採取したCD34⁺造血細胞；末梢血から採取したNK細胞；末梢血単核球の生体外培養によって得たサイトカイン誘導性キラー細胞(CIK)；内皮細胞及び内皮前駆細胞；腫瘍浸潤リンパ球(TIL)；リンホカイン活性化キラー細胞(LAK)；マクロファージ；間葉系幹細胞(MSC)から選択される、請求項1又は2に記載の細胞。

【請求項4】

NK細胞又はCD34⁺細胞に腫瘍壊死因子関連アポトーシス誘導リガンドをコードするアデノウイルスベクターを形質導入することによって得ることが可能な、請求項3に記載の細胞。

【請求項5】

請求項1～4のいずれか1項に記載の細胞を、生理的に許容可能なビヒクルとの混合物で含有する細胞製剤。

【請求項6】

請求項1～4のいずれか1項に記載の細胞を含む、腫瘍治療用医薬。

【請求項7】

腫瘍がリンパ腫である、請求項6に記載の医薬。

【請求項 8】

腫瘍が乳癌である、請求項 6 に記載の医薬。

【請求項 9】

静脈内投与される、請求項 6、7 又は 8 に記載の医薬。